

### 仙人通信 183 筑波山(女体山：876m)

筑波山は、霞ヶ浦の北西に座し万葉の昔から縁結びや夫婦和合の神の山として、又江戸城の鬼門の守り神として祀られた山で、日本百名山・1等三角点としても有名な山である。

県道42号線に面した赤い大きな鳥居の横から入る100台以上も駐車可能な駐車場に車を置いて、本殿横のケーブルカーの始発駅の横にある登山口から男体山・女体山、そして白蛇神社を經由して、車に戻るコースとした。

銀杏や楓の紅葉に取り囲まれた本殿の左側を5分程進んだ先のケーブルカー駅の横に、小さな登山口の標識だ。太い檜林と青木の下木が茂った幅1m程に整備されたコースである。玄武岩の様な岩肌の岩がゴロゴロするコースだ。15分程で休憩ベンチがあり、筑波山に自生する植物群が書かれている掲示板だ。更に20分程でケーブルカーの軌道の横に出る。

コースは緩やかとなり男女川の瀬音を聞きながら20分程で中の茶屋跡の休憩所だ。軌道に沿ってトンネルの上を越し、西方向へ岩と丸太の階段を詰める。岩は、花崗岩質の斑状花崗岩である。八溝山の中・古生界の頷家変性岩だそう。30分程でケーブルカーの山頂駅のある御幸ガ原である。展望台からは加波山から那須の山脈が望めた。ケーブルカーやロープウェイの関係もあり、幼児から80歳を超す高齢者も多く、ズックや革靴で山頂を目指す人に唾然とした。15分程で、ご神体が祀られた男体山の山頂(870m)だ。

南側の眼下に霞ヶ浦が望めるも圏央道から先は、霞の中で富士山や東京方面の展望は皆無だ。残念・・・ 休憩後、再度御幸ガ原に戻り女体山に向かう。気象観測等の鉄塔が並ぶ尾根コースで、ガマ岩等の奇岩が続くコースだ。筑波と言えばガマの油売りが江戸時代からあり、それに因んで命名された岩のようだ。ガマの油は、口上と異なりガマとは無縁の薬剤で、止血止めに紫根等の薬草を胡麻油・馬油・蠟等の液に調合したもののようである。現在も土産物店先で、小瓶に入った肌荒れ防止薬としてガマの油は、売られている。

ロープウェイからのコースと合流して、男体山の山頂から30分で女体山のご神体の祀られた社のある山頂だ。社の先には、岩で出来た小さな展望台があり、百名山と刻まれた石柱と1等三角点を確認できた。海岸線に沿って、加波山を初め八溝山が、そして那須や足尾山地の山々も望む事ができた。社の裏手にある天浮橋を渡り、つつじヶ岡方向に向かう。

トレッキングコースと成ている奇岩を廻るコースだ。大仏岩・北斗岩・裏面大黒・出船入船・陰陽石・めおと岩・母の胎内くぐり・弁慶七戻り等奇岩を楽しみながら、80分程掛けて白蛇神社である。更に15分で神社に、土産物店を抜けて、4時間10分(19500歩)のいつもと一味違う山旅をする事が出来ました。

(h 30.11. 30)

駐車場から男・女体山



ガマ石



女体山の百名山石碑



筑波神社

